

教員紹介

Interview

加藤 夢三 先生

基幹研究院 人文科学系 助教

Profile

東京都出身。早稲田大学文学部卒業後、同大学大学院教育学研究科に進み、博士(学術)の学位を取得。2021年4月に本学に着任。同年、『合理的なものの詩学——近現代日本文学と理論物理学の邂逅——』で全国大学国語学会賞受賞。



「テキスト」に関わる

何でも屋になること

Yumezo Kato

Q1 ご専門の研究についてお話を聞かせてください

専門は、いちおう日本のモダニズム文学ということにしていますが、その具体的な中身は、一般的なイメージと多少異なるかもしれません(どの分野の学問もそういうものかもしれません)。

おそらく多くの方が文学研究という営みに抱いているイメージは、ある有名な小説・詩歌作品を深く読み込み、その作家が遺した日記や書簡などの周辺資料も参照しつつ、あるべき解釈の可能性を探っていくようなものではないかと思います。それは、確かに文学研究の重要な仕事のひとつですが、しかしそういった特定の作家・作品分析だけがその全てではありません。ある「テキスト」(とりあえずは、言語資料を中心とした情報の集積のこと)の可能性を探っていく試みは、いずれも広義の文学研究の範疇に含まれると僕は考えています。僕自身、これまでは文学者を含めた戦間期の人文系知識人たちが、同時代の先鋭的な哲学や科学思想をどのように享受し、どのように「誤読」(人文系の学問にとって、それは必ずしもネガティブな意味ではありません)したのかを主に研究してきました。その解明には狭義の文学作品だけでなく、行

政文書や娯楽雑誌、街頭のチラシに至るまで、同時代に形成されていた言論空間の総体を見ていく必要があります。そういう「テキスト」に関わる何でも屋になることが、僕にとっての文学研究者のあるべき姿です。

Q2 ご専門を選択したきっかけをお聞かせください

10代の頃は、決して文学青年というわけではありませんでした。どちらかと言うと当時は哲学に興味・関心を持っていて、哲学に関わる本を沢山読んでいた記憶があります。思春期を迎えた多くの人間がそうであるように、僕もまた自分が生きることの意味だとか、世界が存在することの意味だとかを真剣に考えていて、そういう問いへの手がかりを与えてくれるものとして本を読み、映画やアニメを観て、音楽を聴き、恋をしていました。そこから文学研究へと向かった理由は、とても私的な事情が含まれることなので省略しますが、そういう意味で僕はいまでも文学作品を、ある種の思索に自分を導いてくれる「思想書」として読解しているのだと思います。こうした読み方は、文学研究者として長所にも短所にもなっていると自己認識しています。

Q3 お茶大生へメッセージをお願いします

ようやく対面の授業が再開されました。僕は古い人間なのかもしれませんが、キャンパスでどうでもいい雑談をしたり、絶対に将来の役に立たないであろうサークルに入ったり、図書館で1日中寝ていたりする経験が、ある年齢の人びとにとって破格に重要な価値を持つものだと信じています。大学というのは、そういった世俗の効率性・有用性とは異なる価値観のあり方を肯定してくれる貴重な場所です。お茶大が皆さんにとって、そういう魅力的な大学になってくれることを心から願っています。

担当: 谷口 幸代
基幹研究院人文科学系 准教授



Q1 現職に就くまでの経緯を教えてください

高校生の頃から物理や計算が好きで、進学先を物理学科に決めました。しかし、大学で物理を学ぶと量子力学のような目に見えずに想像しづらいものが苦手だということに気が付きました。そこで、研究室は印象派物理学という、しずくや泡といった日常に近いものを扱う研究室(奥村研究室)を選びました。研究室に入ってから、実験が楽しく、研究することが好きになり大学院へ進学することに決めました。修士課程を経て、就職活動をする際には、物理の面白さを伝えられる学校の先生になるか、企業で研究をするかの2択で悩みました。就職活動をする中で企業の方々、学校現場の先生方、研究室の先輩方など様々な人と話していくうちに、私自身では気づいていなかった私自身の研究への想いを認識し、企業での研究を選びました。就職先は、「社員が生き生きと働いているか」を重視し、実際に企業の見学や座談会に積極的に参加し、採用担当者ではなく働いている人たちの表情をよく観察していました。現在の会社は、自由に働く制度も整っており、社

員も生き生きしていただけてだけでなく、学生時の研究内容とも近いものを感じたため、リコーで働くことに決めました。

Q2 お茶大での経験は現在の仕事に活かしていますか?

現在はインクジェットに関する研究をしており、他の職種に比べて大学院で研究していた内容と近い分野なので、知識的な部分は大変助けられています。しかし、知識以上に、研究する過程で身につけた思考力・行動力が活かしていると思っています。例えば、授業の実験や研究時に培った、課題解決に向けた段取りや考察する力は、普段の業務で最も役立っていますし、これは分野や職種を問わず役立つ力なのではと考えています。また、お茶大で出会った方々は周りの話をよく聞き、課題解決力に優れていたため、その方々の行動を思い出しながら、チームでの業務に生かしています。

Q3 在学生へのメッセージをお願いします

学生時の私は、学業や研究ばかりの学生と

いうよりは、サークル活動(ジャズダンス)を中心に動いているような学生でした。私は学生時にダンスに夢中になってよかったと思っています。学業以外の時間で得られる経験はたくさんあり、それが人生を豊かにしてくれると私は感じています。自分が気づかないだけで、その経験で得たことや考え方は周りに影響を与えています。ぜひ学業以外に夢中になれるものを見つけて、一度しかない学生生活を楽しんでほしいと思います。

また、私は現在の業務で、物理以外の専門性を身につけることを求められています。学生時には物理と教職の授業が中心だったので、あまり幅広い知識を身につけられたわけではありません。なので、学生の皆さんには時間が許す限りで可能であれば、自分が少しでも興味のある分野や、隣の学科の授業を聴講してみることをお勧めします。

最後になりますが、弊社のリクルータを経験して「お茶大生は遠慮しやすい」ということを感じたので、ぜひ困ったときにはOGを頼ってみてください。

担当: 工藤 和恵
基幹研究院自然科学系 准教授

卒業生紹介

Interview

中里 葉奈 さん

株式会社リコー

Profile

2016年3月、お茶の水女子大学理学部物理学科卒業。2018年3月お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科理学専攻物理学コース修了。2018年4月(株)リコー入社。現在に至る。



研究する過程で身につけた

思考力・行動力が活かしている

Hana Nakazato